



長照寺だより

わげんあいご 和顔愛語

浄土真宗本願寺派(西本願寺) 撰取山 長照寺 静岡県三島市徳倉1195-817 電話055-988-4242
URL <http://cyoshoji.or.jp> E-mail: info@cyoshoji.or.jp



修正会

令和4年1月4日



報恩講

令和3年11月21日

ご講師「遠山 泰範 師」



春季彼岸会法要

令和4年3月21日

ご講師「本持信宗 副住職」

「往生というもっとも大切なことは

凡夫が計らうことではない」 (蓮如聖人御一代記聞書)

何故「葬儀」を勤めるのか…。



住職 本持 愚山

新型コロナが蔓延し二年有余の歳月が流れています。感染はまだ続きます。そんな現況にあつて、今迄に何人の方々が命を奪われたかと報道されますが、本来コロナと言う疫病でこの世を終わるのではないのです。私達は生まれてきたからその時を迎えなければなりません。お釈迦様は、死に纏わる原因を糺す必要はありませんとお示し下さいました。しかし、どうしてと言う疑問は誰もが持ち、また知りたい気持ちは拭えませんが、従いまして、糺した所でその対応をしていくのも命ある者の生き方かも知れません。「死」はこうした事実に出遇った者に多くの思いを起させます。「死ぬとどうなるか」「どこへ行ったのか」「自分もこうなるのか」などなど。そこで死の恐怖を抱き、悲しみ、おののき、悼む心情は誰もが持つ心の変化と言えるでしょう。こうした厳しい現実と向い合い、心の解決を図る場が葬儀です。

では現在の有様を考えてみましょう。残念な事に前述した心の解決などどこ吹く風。型にばかりとらわれ大切な場である事を忘れさせられています。元々ご遺族になられた方々や、故人とご縁のあった方々が集まり、故人の人生歴、歩み、などを語り合い、儀礼を勤める中に哀悼の意を表しつつ、故人からのお心を頂戴す

る事が参列する意味だったので。ところが昨今はコロナ禍にかこつけて人流を避ける為などにご遺族だけで勤めるご葬儀が主流となつています。感染防止の対策としての考え方ならばこのお勤めもいいでしょう。しかし数年前から家族葬、直葬、一日葬など、およそ宗教的意味のない儀礼をよしとして勤められています。実は、一人で勤めても百人で勤めても「葬儀」は「葬儀」なのです。人数や、型としての規模ではない事を知って頂く事を願います。

さて、こうした考え方を望んだ所でやはり気持ちの奥底には経費的な問題が必ず起ります。必要最低限の物、具体的には「柩」「遺骨壺」、これだけで葬儀は勤められます。そもそも「お布施」とは、「見返りを望まない心」の事を言い、対価ではなく大切な修業の一つなのです。又、世間では納めて頂いた「お香奠」を半分返すとか、お断りするとおかしな風習が生まれています。当然準備などしていないのでご近所の方々が持ち寄り、お互い様と物心両面で助け合ったのが香奠の起りです。即ちもらいきりで構わない昔の良き風習で葬儀を行えば経費の問題は解決できるのでは。葬儀は勤めなければいけません。ご遺族となられた方々は面倒くさいと思わず、出来るだけ故人とご縁のあった人々に連絡をとる事が大切なお仕事なのです。亡き（往生）方は私にいろいろな事を語って下さいませ。「君と遇えてよかった、一足先に行くぞ、世話になったな、お浄土で待っているから人生もつと謳歌してこいよ、明日は同じ姿になるかも知れないぞ」先に逝った方は私の行き先をちゃんと示して下さいませ…。



活動報告

令和三年度下期

報恩講

令和三年十月二十一日
…一五〇余名

ご講師「遠山 泰範 師」

浄土真宗の門信徒として最も大切なご法要です。親鸞
聖人のご遺徳を偲び、生きる「力」をいただきます。

※写真は表紙



①

境内清掃作業

令和三年十二月五日
…長照寺境内(二〇〇余名)

新しい年を迎えるにあたり、感謝・感謝。

※写真は中段①・②



②

除夜会

令和三年十二月三十一日
…長照寺本堂・梵鐘(二〇〇余名)

百八ツばかりの煩惱ではないことを知り、これからは少
しずつ出していきたいと思います。

※写真は中段③・④



③

修正会

令和四年一月四日
…三〇余名

心新たに出発。今年こそはと毎年思っている自分がいた。

※写真は表紙



④

春季彼岸会法要

令和四年三月二十一日
…六十余名

ご講師「本持 信宗 副住職」

※写真は表紙

恵みのお参り

七五三のお参り

令和三年十月十八日

鈴木 結依(ゆい)さん
鈴木 さくら さん

※写真は下段左⑤

初参式

令和三年十一月二十八日

鈴木 みつき さん

※写真は下段左⑥

初参式

令和四年一月三十日

堤 航世(こうせい)さん

※写真は下段左⑦

祝入園

令和四年三月二十四日

鈴木 結依(ゆい)さん

※写真は下段左⑧



⑤



⑥



⑦



⑧

今後の活動予定

2022年(令和4年)

4月3日(日)	釋尊降誕・花まつり	本堂
4月12日(火)	門信徒会親睦ゴルフコンペ	三島ゴルフクラブ
5月8日(日)	門信徒会定期総会	本堂
7月24日(日)	境内清掃作業	境内
未定	お寺の林間学校 (南ブロック門徒子弟研修会)	未定
8月13日～15日	合同盆法要(全8回)	本堂
9月23日(金)	秋季彼岸会法要	本堂
10月10日(月)	寺報(第48号)発行	

※各行事は、予定ですので、その都度、寺から案内を送付します。

※定例法座は毎月第3土曜日 午後1時より本堂にて開催。

※その他に親睦の集いを募集・計画中。

日頃の忙しさから解放されて
気持ちの軽くなる自分を見
できるかもしれません。

※新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、上記諸行事等を急遽中止
もしくは延期させていただく場合があります。

初参式の報告

長照寺ご尊前にて、本持唯菜ゆいかの初参式をさせていただきました。

家族一同で阿弥陀様に唯菜ゆいかの誕生をご報告させていただきました。改めて命のつながりの尊さを知らされました。これからの成長が楽しみでしかたありません。ご門徒の皆様にも唯菜ゆいかの成長を温かく見守っていただけたら有り難いです。

今後も親子共々よろしく願いいたします。

合掌



編
集
後
記

☆お寺からのお便りは、家族皆さん必ず読んで頂く習慣をつけましょう。

☆お寺は「よろず相談処」です。

日頃悩んでいる事がありましたら、何でもご相談ください。

☆次回寺報は、2022年10月発行予定です。

●ご意見・ご要望は、寺務所まで

〒411-0044三島市徳倉1195-817 TEL・FAX 055-988-3900

編集人=菊沢・斎藤・園田・杉山